

「出題の意図」

選抜区分	2026年度（選抜区分：学校推薦型選抜） 文学部 比較文化学科（科目名：小論文）
<p data-bbox="188 394 268 423">問題Ⅰ</p> <p data-bbox="188 488 240 517">問4</p> <p data-bbox="188 533 1390 703">自由英作文の問題として、英語の構成能力（英単語・英文法・英語構文に関する知識）、さらには発想力や論理的思考力を問うている。また、解答のためには問題文の主題を適切に理解していることが必要となる問題でもあるため、英語の読解能力やある程度のまとまった文章を把握する能力を問うものともなっている。</p> <p data-bbox="188 813 268 842">問題Ⅱ</p> <p data-bbox="188 907 240 936">問2</p> <p data-bbox="188 952 1390 1122">自身の知識や経験から、解答に当てはまる適切な事例を選び出し、論理的かつ具体的にまとめる力を問うている。取り上げる事例は、必ずしも物理的に小さいものである必要はない。例えば、問題文に記される「込める、折り畳む、削り取る、詰める、構える、凝らせる」のいずれか該当するような事例であれば問題ない。</p> <p data-bbox="188 1137 1390 1263">そのように、この間に結び付く適切な事例を見つけ出す発想力と、自身で取り上げた事例をもとに、「小ささの美学」が日本文化に特有のもの、あるいは、特徴的なものであると言えるかどうかを論理的かつ具体的に論述する力を求めている。</p> <p data-bbox="188 1373 427 1402">以下、例を挙げる。</p> <p data-bbox="204 1467 284 1496">(例1)</p> <p data-bbox="188 1512 1390 1957">日本では、三月三日の桃の節句に雛人形を飾るという風習が現代でも息づいている。これは、内裏雛と呼ばれるように天皇と皇后の婚礼の様子を縮小して表したものである。そのうち特に七段飾りや八段飾りの雛人形を見ると、各人形の相貌や衣装の精巧さはもちろんのこと、下方の段に配置される箆箆や琴、裁縫道具といった嫁入り道具、さらには、牛車や駕籠といった乗り物などのミニチュアチュールが精巧に作り込まれた様には感嘆させられる。女兒が誕生すると無事な成長を願って雛人形が親戚から贈られ、それを毎年飾るという風習が日本に根付いたことは、日本文化の小ささの美学の一面を表すものと言えよう。しかし、ヨーロッパにもドールハウスを親から子供に贈るという歴史があったと言われ、また、現代でも愛好家がヨーロッパ内外に存在する。したがって、小ささの美学は日本文化を特徴付けるものではあろうが、日本文化特有のものとはまでは言えないだろう。(397字)</p>	

(例2)

日本の絵画には余白が大きく設けられたものが少なくない。例えば、雪舟筆「破墨山水図」では画面下方中央に中心モチーフである島を描き、その背後に遠山を淡墨面で表すが、それらの周囲は余白とする。また、狩野尚信筆「富士見西行図屏風」(六曲一双内右隻)は画面のほぼ中央に富士山を大きく描き、画面左下にそれを見上げる西行を小さく描き込むことによって、西行から富士山へ到るまでの広大な空間が表現される。西洋絵画を見慣れた現代人からすると、余白によって空間的な広がり表現する絵画は日本ならではのもののようにも思われる。しかし、伝・徽宗筆「秋景山水図」を見るとわかるように、余白によって広やかな空間を表現する作画はそもそも中国絵画由来である。したがって、モチーフを限定して余白を設ける絵画は、日本文化を特徴付けるものではあるが特有のものとは言えない。これは、縮み志向や「小ささの美学」が日本特有ではないことに通じる。(399字)